

▲ ニュウナイスズメの群

時には、400羽の群が見られることもあります。



▲ オオタカ（ワシタカ科 留鳥または冬鳥）

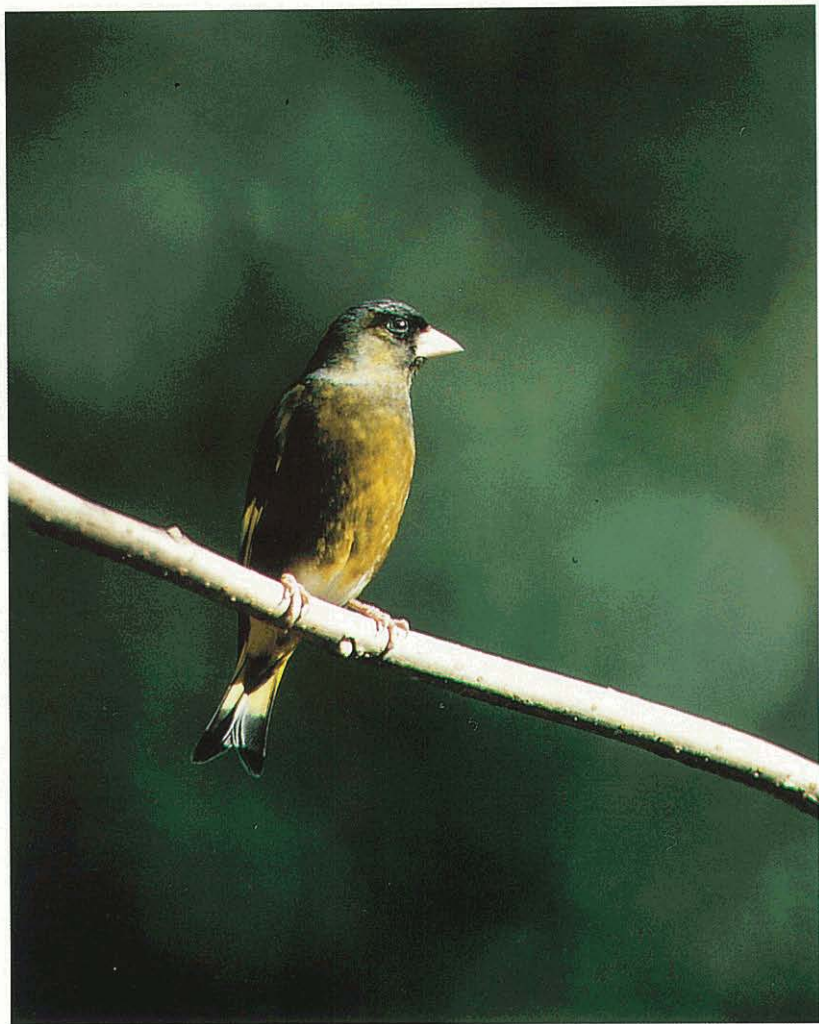
カラスくらいの鳥で、小鳥などを捕らえて生活しています。町内全域で観察される数は多くありません。オオタカがくらすためには、餌となる小鳥が多くすんでいなければなりません。オオタカが見られることは、豊かな自然が残っている証拠になります。





▲ キジバト (ハト科 留鳥)

町内全域に広く生息している野生のハトです。昔から「ヤマバト」としてよく知られています。庭の給餌台などにも訪れ親しみのある鳥ですが、生えたばかりのマメの芽を食い荒らし、農家の人から嫌われることもあります。



▲ カワラヒワ ♂ (アトリ科 留鳥)

一年中見かける小鳥ですが、冬になると群になるのでよく目につきます。身近なところにすんでいるので、スズメだと思っている人がけっこう多くいます。





▲ アオバズク (フクロウ科 夏鳥)

初夏、若葉の茂るころ、神社の森のように大きな木のある、よく茂った森に渡ってきます。フクロウの仲間、ガなどの昆虫を主に食べています。



▲ オオルリ ♂ (ヒタキ科 夏鳥または旅鳥)

4月頃に姿を見せます。雄は姿も声もたいへん美しく、ウグイス・コマドリと共に日本三鳴鳥の一つです。そのため密猟も後を絶ちません。町内では萩原・道上奥の林や新宮・雲母の谷など沢のある谷筋で姿を見かけることができますが、あまり多くは生息していません。





▲ キビタキ ♂ (ヒタキ科 夏鳥または旅鳥)

5月頃からさえずりが聞かれるようになる美しい小鳥です。数が少なく熊野町ではめずらしい鳥です。キビタキやオオルリのすめる林は、自然が豊かな環境です。これらの林を大切に守りたいものです。



▲ コサメビタキ (ヒタキ科 夏鳥または旅鳥)

目立たない地味な色をした小鳥です。春と秋の渡りの季節に見られます。アカメガシワなどヒタキ類の好きな木のそばで待っていると、実を食べにやってきます。この仲間は、フライキャッチという方法で飛んでいる昆虫も巧みに捕らえます。





▲ アマサギ (サギ科 夏鳥)

よく見かける白いサギはそのほとんどがコサギです。アマサギはコサギによく似ていますが、コサギのように川の中に入って餌をとるようなことは少なく、草地や田んぼにいます。夏羽は美しいオレンジ色を帯びます。町内では多く見られません。



▲ マガモ ♂♀ (ガンカモ科 冬鳥)

熊野町にはカモ類が多くすめるような大きな川や池がありません。しかし、少数ですが二河川や一部の溜池などで見ることができます。写真の中で茶色のものは雌です。



▲ マヒワ ♂ (アトリ科 冬鳥)

主に松林で見られる小鳥です。集団になって冬を過ごし、時には数百羽の大きな群になることがあります。ヤシャブシやアカマツの種を求めて山を移動しています。春先にはにぎやかに鳴きかわしています。





▲ アオジ ♂ (ホオジロ科 冬鳥)

11月頃から林の縁のやぶや草地で見られるようになります。ホオジロやカシラダカなどいっしょに行動していることがよくあります。しかし、アオジはなかなか開けた場所へ出てこないで、観察しにくい小鳥です。



▲ ミヤマホオジロ ♂ (ホオジロ科 冬鳥)

11月頃から姿を見かけるようになるホオジロの仲間です。いつも小さな群で林の中を移動しながら生活しています。熊野町では普通に見られる小鳥です。



▲ ジョウビタキ ♂ (ヒタキ科 冬鳥)

10月中旬頃から渡ってきます。家の近くにやってきて、目立つところに止まり、おじぎをするような行動をします。翼に白斑(はくはん)があることから「もんつき」と呼ばれ、昔から親しまれている小鳥です。





▲ シロハラ (ヒタキ科 冬鳥)

地味な色をした鳥で、10月末頃渡ってきます。林にすみ地上の落葉をかきわけながら餌になる小動物を探しています。警戒心が強く、危険を感じるとすぐ茂みに逃げ込むので、観察するのがむずかしい鳥です。



▲ ウソメ (アトリ科 冬鳥)

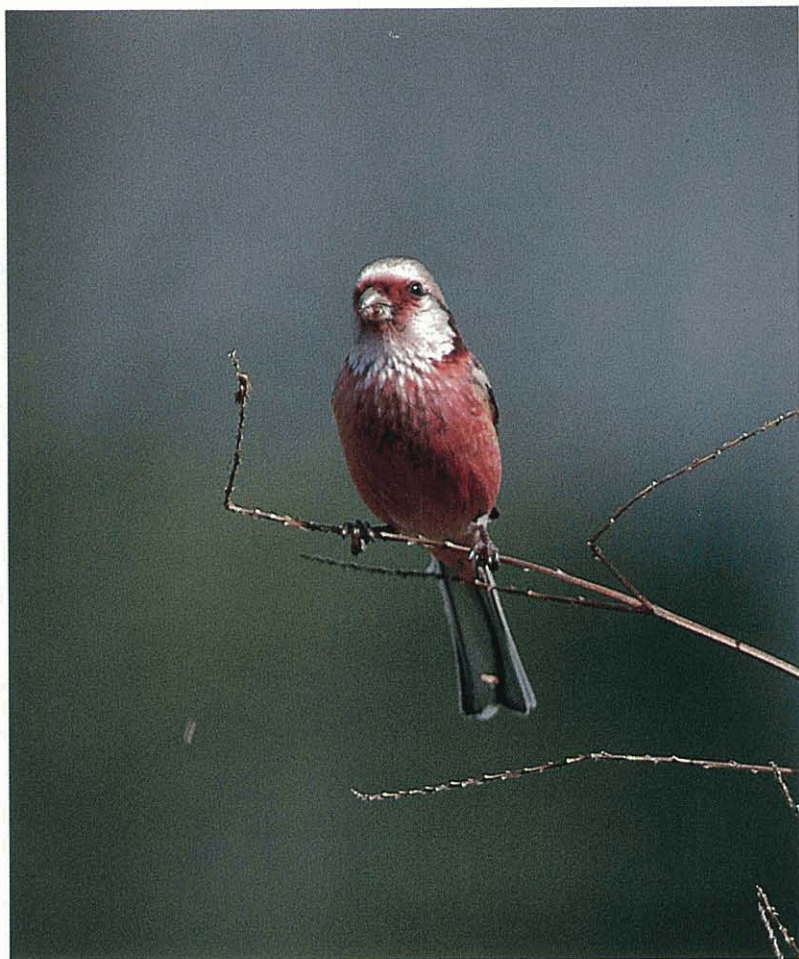
雄はのどの赤色が目立つ美しい小鳥です。1月から春先まで見られます。特に、春先はサクラやウメの花芽を食べるため嫌われることもあります。



▲ ルリビタキ ♂ (ヒタキ科 冬鳥)

夏は本州中部以北の高山にすんでいます。熊野町では11月頃から見られ始めます。美しいルリ色に輝くのは雄の成鳥だけで、雌や若鳥は目立たない地味な色をしています。





▲ ベニマシコ ♂ (アトリ科 冬鳥)

雄は赤い色をした美しい小鳥です。主に林の縁のやぶや草地で見られますが、数が少なくなかなか姿を見ることができません。



▲ ノスリ (ワシタカ科 冬鳥)

盆地の周辺の林で越冬していますが、めったに見ることはできません。地上にいるノネズミなどをねらうことが多いため、空中に凧(タコ)のように浮いていることがあります。



▲ ミサゴ (ワシタカ科 冬鳥)

普通は河口や大きな池、海辺で見られる魚食性の鳥です。熊野町にはミサゴのすめるような環境はありませんが、呉地ダムで時々見かけることがあります。おそらく、近くに生息しているものが、飛来するのでしょう。